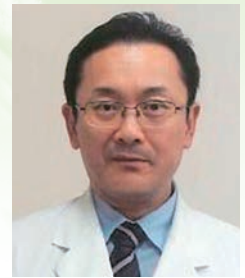




呼吸器内科学講座

呼吸器疾患研究のエキスパート集団



主任教授 柴田 陽光

当講座は平成11年に開設され、県内の呼吸器内科医師育成に取り組んでおります。研究では主に肺癌、気管支喘息、間質性肺炎に関する研究に取り組んでおりますが、平成29年12月より講座教授に小生が着任し、慢性閉塞性肺疾患（COPD）の研究計画も開始予定になっております。それぞれの研究グループの活動を紹介します。

■肺がんグループ

肺がん診療は診断から治療、そして緩和ケアに至るまで全人的医療の実践の場となっています。当科では、国内の臨床研究グループに数多く参加し、新しい治療法の開発にも協力しています。治療の進歩をリアルタイムで実感でき、これからの新しい展開にもっともワクワクできる分野の一つと言えます。多くの若い先生方には、社会の高齢化とともに増加するがん患者と向き合う診療を通して人間的にも成長していただければと思います。当科では、肺がん患者の治療方針を決める上で欠かせない気管支鏡検査の実施数も県内随一の多さを誇り、研究分野の異なる呼吸器内科医師同士のチームワークの良さを育てております。

■喘息グループ

血液、喀痰、呼気などの非侵襲的手法を用いて簡便かつ鋭敏に呼吸器疾患を診断する方法の開発を行っています。当科では呼気一酸化窒素濃度が喘息患者で上昇すること、喘息のスクリーニング診断、管理に応用可能であることを数多く報告してきました。またCOPDや難治性喘息に認められる好中球性気道炎症

の指標として、血液・喀痰・呼気を用いた硫化水素濃度測定法を新たに確立しました。これまで、COPD、難治性喘息患者で上昇し、その急性増悪（発作）の予測指標として臨床応用可能であることを報告してきました。他にも、呼吸器診療で最も多い症状である咳嗽を客観的に評価する方法を日本で初めて臨床導入しました。喘息患者と非喘息患者の咳嗽には異なる特徴がある事を発見しております。今後、上述の検査法が広く普及し、より正確かつ簡便な呼吸器疾患の診断・管理につながることを目指してまいります。

■間質性肺炎グループ

特発性肺線維症、膠原病など種々の原因による間質性肺炎、サルコイドーシスを中心に肺胞蛋白症、リンパ脈管筋腫症やランゲルハンス細胞組織球症などの稀少疾患に対しても最新のエビデンスに基づいた診療を行っております。厚労省びまん性肺疾患調査研究班の一員として全国多施設と臨床研究を共同で進め、東北地方ではトップクラスの実績をあげています。また、これら難治性疾患の病態を明らかにするために、主に細胞外マトリックスに着目して、細胞株や遺伝子欠損マウスを使用した基礎的な研究を行い、結果を国内外に積極的に発信しています。

■COPDグループ

COPD患者における肺・循環動態に関連した臨床研究を近日中に開始する予定です。一緒に研究してくれる人材を募集しています。

